

# 特定看護師の研修がありました！～パート2～

令和4年2月～5月の予定で看護師の松井優子さん(訪問看護ステーションひまわり)が長崎記念病院で特定看護師の研修を行いました。実際には予定よりも早く終了されたとのことのご報告を頂き、現在のご活躍が期待されます。その看護師の松井さんに行ったインタビューをご紹介します！

写真がなかったので松井さん  
似のイラストを載せました！



## ●研修に参加したきっかけは何ですか？

訪問看護師として働くことになり1人で在宅の方をアセスメントしなければいけないのですが、知識・技術共に自信が無く再学習を目的に参加しました。

## ●研修中、実際にどんなことを行いましたか？

医学の知識、解剖生理から臨床推論、法律まで幅広く、深い内容をeラーニングや講義を受け、シミュレーション実演の回数も多く貴重な体験をさせて頂きました。

## ●実際に研修を行って感じたことを教えてください。

医学の深さ、難しさを痛感しました。症状から診断までの過程について理解できるようになりたいと思いました。

## ●長崎記念病院はいかがでしたか？

コロナ渦で多忙な中、実習を受け入れて下さり感謝の気持ちでいっぱいです。長い歴史のある長崎記念病院で携わるスタッフの皆様、笑顔で優しい言葉かけを私にも患者様にもして下さりあたたかい雰囲気を感じました。

## 長崎記念病院には4月から1年間の予定で特定看護師の浅井健太郎さんが赴任されています！

特定看護師の浅井です。看護師の特定行為の認知度はまだ低いですが、私は創傷管理関連(ドレーンの抜去、VAC療法、褥瘡又は慢性創傷におけるデブリードマン)や胃瘻カテーテルや膀胱瘻カテーテルの交換ができます。大学病院では特に胃瘻カテーテル交換の症例が少なかったため、他の特定行為もそうですが、スキルアップのためにたくさんの経験を積ませて頂きたいです。若輩者ではございますが、何卒よろしくお願いします。

医師の働き方改革や在宅医療の推進に向け始まった特定行為に関わる看護師の研修制度。医療従事者は「地域のために」「患者様のために」という思いで働く一方、患者様と同じ「人間」であること変わりありません。長時間労働は診療の質を下げることや医療従事者の健康を損なうことにつながりかねませんが、けがや病気はタイミングを選んでくれませんのでいつでも対応する医療機関は地域住民にとって心強い存在です。近江商人の言葉に「三方よし」とありますが、医療機関では「地域住民(患者様)」「病院」「職員(医療従事者)」が三方に当てはまるのではないのでしょうか。特定看護師のように新しい取り組みで今ある矛盾が少しでも解消されることや、時間や人材は限られていてもチーム医療で補っていく良い実例が出るのが期待されます。

職種に関わらず力を合わせて地域の方々の健康を守っていききたいですね。

